

既存工作機械のIoT化

カメラで状況常時把握

市場をつくる

ソフィックス社長

西山清隆氏



ソフィックス（横浜市港北区、西山清隆社長、050・3823・3823）は、古い工作機械のIoT（モノのインターネット）化を可能にするシステム「ソフィックスキャン・オメガ・アイ」を2016年11月に発売した。カメラを使って機械の稼働状況を常時把握できるほか、配線が不要で簡単に設置できる。西山社長に販売状況や今後の計画について聞いた。

（横浜・渡部敦）

「製造現場のIoT化に関心が集まっています。中小製造業の中には古い工作機械を使用している企業も多く、保有する機械のメーカーもさまざま。

「生産性を向上させたい、ダウンタイムや在庫を減らしたいなどと、顧客によって求める要望が異なる。生産工程のある部分を見える化できるため、顧客が改善点に気付くきっかけ

「具体的にどんなことができますか。」

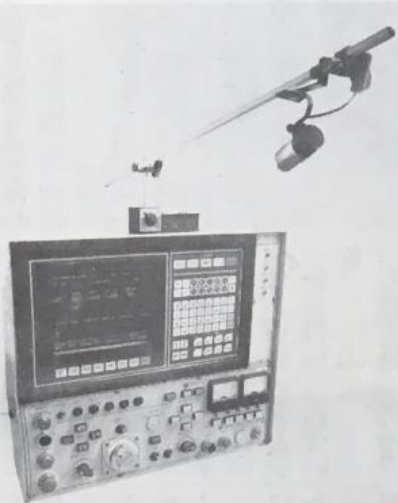
作業員識別 機能追加も

「16年11月の第28回日本国際工作機械見本市（JIMTOF2016）の期間中に、約1400社がこの製品を展示した当社ブースを訪れた。後日、『革新的

ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」に採択されたので購入したいとの声を聞き、3月末までに25台を納入した。今後も同補助金を活用して約1000台の受注を見込む。価格が

現実的提案で中小後押し
西山社長が就任直後に取り組んだのが、将来の企業が稼働を示した「つなぐ」ようにした。現実的な提案で、中小のIoT化を推進しようとする同社の取り組みに今後も注目したい。

「『オメガ・アイ』を、工場内における作業の把握などに活用したいと考えている。作業員を識別できるようにして、操作盤での入力や工具交換の実施状況が分かるようにする。ソフトを入れ替えることで機能向上につなげたい。将来は稼働データを蓄積し、人工知能（AI）による学習機能を構築したい。中小製造業のIoT化を進め、日本のものづくりに貢献してい



工作機械の操作盤に向けたカメラを通して稼働状況が把握できる

「『オメガ・アイ』を、工場内における作業の把握などに活用したいと考えている。作業員を識別できるようにして、操作盤での入力や工具交換の実施状況が分かるようにする。ソフトを入れ替えることで機能向上につなげたい。将来は稼働データを蓄積し、人工知能（AI）による学習機能を構築したい。中小製造業のIoT化を進め、日本のものづくりに貢献してい